

## ■アジャイル型開発に適した契約モデル

### ①基本/個別契約モデル

プロジェクト全体を1つの基本契約で締結し、プロジェクト内でひと固まりの要件が確定する度にその単位で1~3ヶ月間程度の短期間の個別契約を順次締結するモデルです。個別契約の期間を短くすることで、何を作るかという要件と対応する成果物（各種設計書等やプログラム）が明確になり、確認も容易になります。また、個別契約は要件の確定度合いに応じて請負契約または準委任契約を選択できます。個々の契約期間が短いことで、契約の事務処理が増加する場合は、個別契約の本文を同一にし、別紙で個々の開発要件（スコープ）・納品物・開発期間・費用を記述することで煩雑さを解消することができます。

### ②組合モデル

建設業界などで使われている共同企業体制度と同様にユーザー企業とベンダー企業とが共同事業体（ジョイントベンチャー）を形成し、共同事業契約を締結するモデル。特定の目的のために事業組織体を構築するので、アジャイル型開発の特徴であるユーザー企業とベンダー企業との緊密な協力体制をそのまま契約に反映することができます。具体的には、ユーザー企業とベンダー企業とで民法上の組合を折半で設立し、ユーザー企業は資本を、ベンダー企業は労務をそれぞれ出資し、両社の代表が開発のマネジメントを行います。

## ■アジャイル型開発の利点

### ①顧客のメリット

- ・短い開発サイクル毎に実際にソフトウェアを動かし、要求通りに動作するかどうか確認できる。
- ・すべての要求が最初に決まらなくても開発に着手できる。
- ・要求や、その優先順位の変更に柔軟に対応できる。
- ・要求通りに仕上がっているか、定義した要求に問題が無いかを早期に確認できる。
- ・要求の変更により不要となったものを開発しないで済む。

### ②開発者のメリット

- ・顧客の要求と作成した成果物が異なっても、開発サイクルが短いので早期に検出でき、軌道修正が可能。
- ・ソフトウェアの利用目的を理解した上で開発に着手するため、開発者は主体的な作業を行うと共に、業務にやりがいを実感できる。
- ・短い開発サイクル内で開発者は全ての工程に携わり、多能工としての経験を積み上げるので、個人のスキルアップと組織の成長が可能。
- ・開発サイクルが短期間で、その都度成果物を確認できるので、開発者が達成感を実感し、作業へのモチベーションを維持できる。